


長崎中心部の渋滞を緩和し、地域の活性化を支援する 都市計画道路 浦上川線

長崎市は、平坦な土地が少ない「坂のまち」。このため、国道202号や国道206号といった幹線道路の多くが、狭い平坦地に集中し、慢性的な渋滞が発生しています。

都市計画道路 浦上川線は、幹線道路の渋滞を緩和し地域間の交流を深めることで、地域の活性化に貢献する新しいルートとしての機能を担います。

また、長崎駅周辺で計画されているさまざまなプロジェクトを強力に“バックアップ”する役割も期待されます。



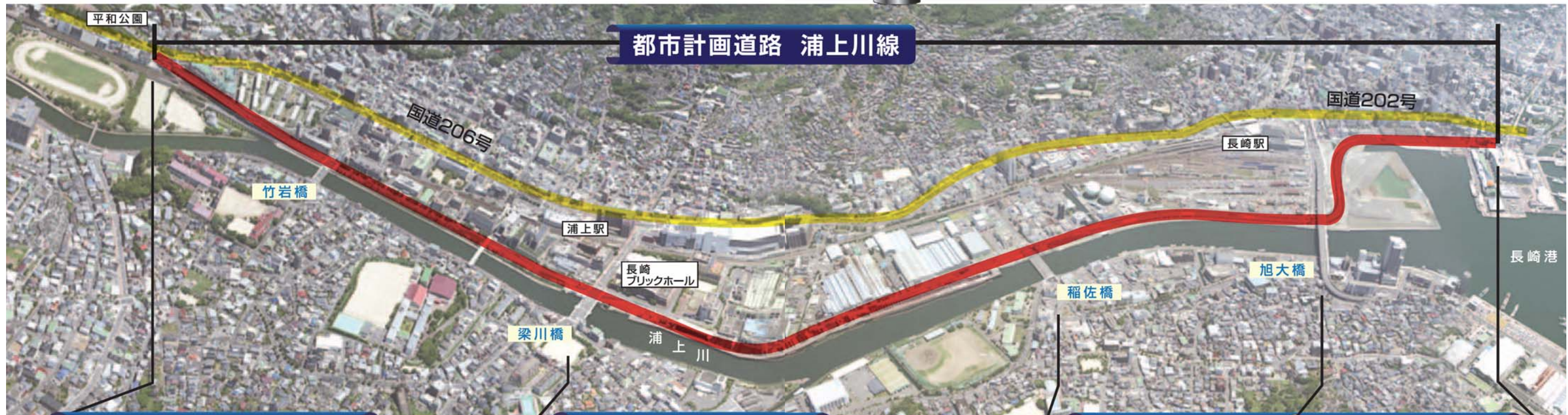
▼ 開通の様子(H22.11.21)

平成22年11月 都市計画道路 浦上川線が全線開通

都市計画道路 浦上川線は、昭和50年度の事業着手以降、順次、整備が進められてきました。

平成22年11月には、最後に残された幸町工区(茂里町～幸町 860m)が開通、これにより、松山町から元船町までの浦上川線全線が完成し、通行可能になりました。

路線の概要	
路線名	都市計画道路 浦上川線
事業主体	長崎県
都市計画決定	当初決定:昭和50年10月3日
	第1回変更:平成元年7月7日(路線の延伸)
	第2回変更:平成11年7月9日(路線の延伸)
	第3回変更:平成13年12月18日(構造の変更)
総延長	3,250m
起終点	長崎市松山町～元船町
道路規格	第4種 第1級
設計速度	時速60km
車線数	4車線および6車線(緩速車線を含む)



松山町～茂里町工区 (延長 920m) 平成元年12月開通 (4車線)

[JR線や路面電車などの立体交差によりスムーズな自動車の走行を実現]

JR線と路面電車をひとまたぎ、踏切がなく信号交差点も少ない、スムーズな自動車走行環境を実現しています。

また、幸町工区の開通にあわせて、梁川橋東交差点も立体交差化され、さらに快適な道路空間の形成が図られています。

■ JR線と路面電車を一度に越える松山高架橋により、踏切のないスムーズな走行環境の形成が図られています。



■ 梁川橋東交差点は立体交差化が図られ、快適な道路空間を形成しています。



幸町工区 (延長 860m) 平成22年11月開通 (4車線)

[浦上川に張り出した特徴的な“ダブルデッキ”構造により、快適な道路空間を確保]

区間の大部分を占める浦上川高架橋は、市街地中心部向けの車線と、北方方面向けの車線を分離し、浦上川の上に張り出した特徴的な“ダブルデッキ”構造になっています。

これにより、用地確保が難しい既存市街地内で、十分な道路空間を確保しています。

■ 片側2車線の広くて走りやすい車道が整備され、スムーズな自動車走行環境が形成されています。



■ ダブルデッキの下層部には、連続的な歩道空間が確保され、歩行者や自転車のスムーズな通行も可能になっています。



尾上町工区 (延長 700m) 平成20年3月開通 (4車線)

[ゆとりを持った空間を確保することで、広々としたシンボリックな道路空間を形成]

広々とした道路空間が形成され、自動車はもちろんのこと、歩行者や自転車にとってもゆとりある快適な通行環境が整備されています。

また、港町長崎を創出するため、景観にも配慮した設計となっています。

■ 両側とも、ゆとりとした快適な歩道空間が確保され、散歩やジョギング、サイクリングなどの余暇活動の場としても利用されています。



■ 橋上の空間を活用して、港や市街地、対岸の風景などが楽しめる憩いの空間も確保されています。



元船町工区 (延長 770m) 平成20年3月開通 (4車線)



交通状況の変化

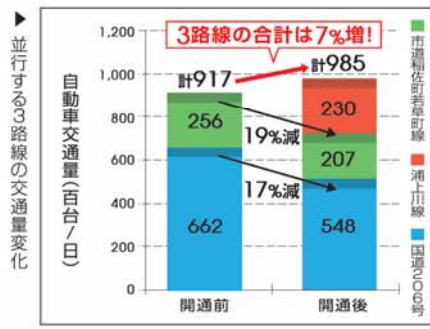
浦上川線に並行する国道206号などから交通が転換 周辺道路の交通状況は大きく変化

浦上川線が全線開通したことで、国道206号をはじめ並行する路線の交通量が大幅に減少するなど、周辺道路の交通状況が大きく変化しています。

浦上川線の全線開通にともない、並行する国道206号や市道稲佐町若草町線などの交通量が大幅に減少

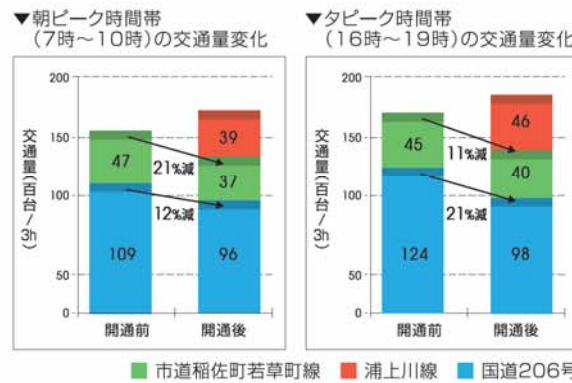
平成22年11月に開通した茂里町～幸町区間の交通量は約2.3万台/日(平成23年3月観測結果)で、並行する国道206号や市道稲佐町若草町線では交通量が大きく減少しています。

また、既に開通していた浦上川線の前区間についても、全線が開通したことで交通量が大幅に増加しています。



国道206号では夕ピーク時間帯、市道稲佐町若草町線では朝ピーク時間帯の交通量減少が顕著

並行する国道206号では、特に夕ピーク時間帯の交通量減少が顕著になっています。一方で、浦上川の対岸に位置する市道稲佐町若草町線では、朝ピーク時間帯の交通量減少が目立ちます。



直接的な効果

浦上川線の開通やそれにともなう渋滞緩和により 所要時間が大幅に短縮

浦上川線の全線開通により、時津・長与方面から長崎市中心部に向かう際の所要時間が大幅に短縮されました。また、「抜け道」として利用されていた市道などの交通量が減少し、地域の安全性向上にも寄与しています。

松山町交差点や築橋交差点から大波止交差点までの平均所要時間(朝ピーク時間帯)は、浦上川線全線開通にともない大幅に短縮!

信号交差点も少なく、スムーズに通行が可能な浦上川線が全線開通したことで、松山町交差点や築橋交差点から大波止交差点までの朝ピーク時間帯の平均所要時間が大幅に短縮しました。また、国道206号や市道稲佐町若草町線を経由するこれまでのルートについても、渋滞が緩和されたことで平均所要時間の大幅短縮が見られます。



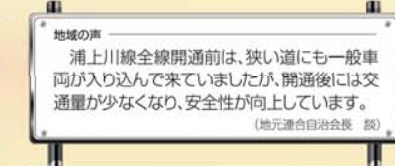
国道206号などの渋滞が緩和

国道206号などの交差点では、朝の通勤時間帯を中心に激しい渋滞が発生していましたが、浦上川線の全線開通にともない、大幅に渋滞が緩和されています。

▼ 国道206号宝町交差点の渋滞状況の変化(市街地中心部向け)



- 国道206号の渋滞が緩和されたことで、通学路などとして利用されている
- 市道等の交通量も減少



波及的(間接的)な効果

道路混雑・渋滞の緩和や所要時間の短縮などにもとれない 市民生活や経済活動にもさまざまな波及効果が

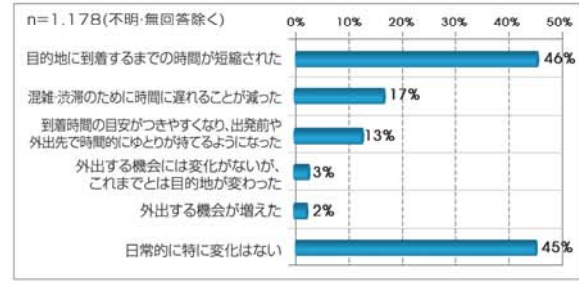
日常的な移動の利便性や生活環境、交通事故の危険性などといった市民の日常生活や、物流・観光といった経済活動にも、さまざまな効果が波及しつつあります。

日常生活の利便性の向上

目的地までの移動時間短縮はもちろんのこと、所要目的地までの時間が読みやすくなったため、出発前や外出先で時間的な余裕を持てるようになりました。

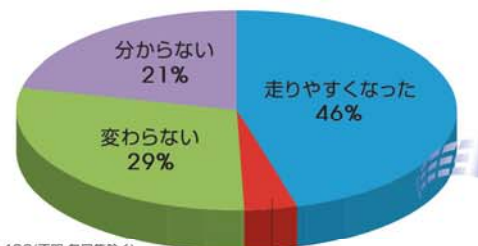
また、わずかではあります、外出の目的地が変わった・外出する機会が増えたなどといった回答も見られ、今後、地域間交流の活発化や地域活性化などにつながっていくことが期待されます。

▼浦上川線全線開通にもとない日常生活の変化



※一般ドライバーアンケート調査

▼国道206号など周辺路線の「走りやすさ」の変化

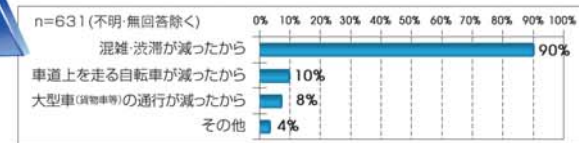


※一般ドライバーアンケート調査

「走りやすさ」の向上

一般ドライバーの約半数が、混雑緩和などにより、以前よりも国道206号等が「走りやすくなった(運転しやすくなった)」と感じており、事故危険性の低下も期待されます。

▼走りやすくなった理由



救急搬送の時間短縮・患者負担の軽減

病院までの救急搬送時間が短縮され、また、搬送時の振動も少なくなったため、搬送される患者の負担軽減にもつながっています。

公共交通(路線バス)の利便性向上

国道206号の渋滞の緩和にもとない、朝ピーク時間帯の長崎市中心部向けのバス定時性が向上しました。

また、浦上川の対岸を走る路線についても、全線開通後はほぼ定刻通りの運行が可能になっています。

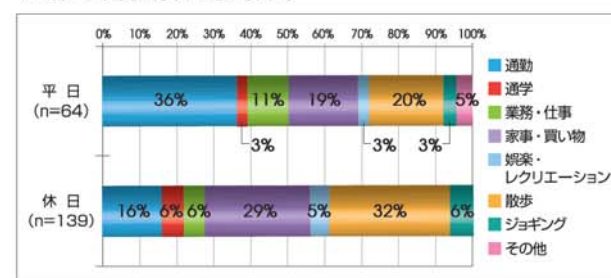
歩行環境の改善

松山町から長崎駅南側まで、快適で連続した歩行空間が整備されたことで、歩行者の通行環境改善が図られています。ジョギングや散歩などといった余暇活動などの場としても活用されており、健康増進にも寄与しているものと考えられます。

浦上川線と対岸の遊歩道、さらには平和公園まで回遊できる面的な歩行者空間が形成され、快適にジョギングや散歩などを行うことができるようになりました。

※地元連合自治会長 談

▼浦上川線歩行者の移動目的



※歩行者聞き取り調査

物流の効率化

渋滞緩和や所要時間の短縮が図られることで、物流の生産性が高まり、また、配送時間の正確性が向上するなど、物流の効率化が図られています。

浦上川線の全線開通で、配送にかかる時間が短縮され、労働生産性が向上しています。また、配送時間の正確性も向上しています。(物流事業者 談)

配達時間が短縮され、効率性が良くなりました。これにより、配達が遅れているエリアへの応援や営業活動、事務作業が可能になるなどの効果があると考えています。(物流事業者 談)

今後の検討課題

特定の交差点での渋滞悪化など

今後検討が必要な課題も!

さまざまな効果の一方で、浦上川線の全線開通にもとない交通量増加により、渋滞が悪化している交差点も見られ、改善策を検討していくことが求められています。また、浦上川線の北側への延伸についても要望が寄せられています。

浦上川線と国道206号が合流する「下の川橋交差点」をはじめとして、浦上川線と交差する交差点や浦上川線へのアクセス経路にあたる交差点では、全線開通前に比べて渋滞が悪化



▲下の川橋交差点の渋滞状況

一般ドライバーの4割近くが、下の川橋交差点の渋滞が悪化したと指摘しています。また、そのほかにも、東西方向道路と浦上川線との交差点や、浦上川対岸の道路から浦上川線へのアクセス経路にあたる交差点で渋滞が悪化しているという指摘が目立っています。

▼渋滞悪化の指摘が多い交差点(指摘率10%以上)



※一般ドライバーアンケート調査

下の川橋交差点から北側の区間が混雑しているため、現状では北部方面への時間短縮効果は限定的なものとなっています。浦上川線がさらに北側まで延伸できれば、一層便利になるのではないかと思います。(物流事業者 談)

北側への浦上川線延伸に対する要望も

国道206号の下の川橋交差点以北の区間では、全線開通前に比べて交通量が増加し、混雑が悪化していることから、北側への浦上川線延伸を要望する意見も見られます。



都市計画道路 浦上川線